平成26年度 練馬区立下石神井小学校学校経営計画

学校教育目標	よく考える子	心ゆたかな子	たくましい子		
目指す学校像	下石神井の地に根付き、 愛情をもって、鍛え、支え、「よく考える子」を育てる学校づくりを経営理念とする。 昨今の教育改革の動きを理解するとともに、 人格の完成という教育の不易に軸足をしっかりと置き、 公教育としての職責を果たす。				
今年度の重点	国語教育の充実と 学習意欲、自主自 び」を追究する教育 中学校と連携して、	津、根気強さ、ていねい 活活動を重視する。 家庭学習・生活規律の	さを基盤に、「思考の深まり」「原	思考の喜	

- < 下石神井小学校の先生方の努力 >
- 1. 子どもたちと元気なあいさつをしよう
- 2.朝は、教室で子どもたちを迎えよう
- 3.45分の授業を確保しよう

(振り返りを活用する)

- 4.週ごとの指導計画をしっかり立てて指導しよう (評価の確認を)
- 5.地域の行事には、年に数回は顔を出そう
- 6.子どもの命は、全員で守ろう
- 7. 研究、研修への取り組みにより自らの資質向上を図ろう (子どもの心に届くものは、

教師が熱意をもって教えたいと思うもののみである)

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策		高度に達成	概ね達成	保護者評価(4項目)	児童評価(4項目)
	3	国語教育研究を生かした指導の充実 学習規律の確立と学年・学 級の安定 文化的な行事等の充実によ る学習意欲の向上 読書活動の推進 家庭学習の定着	王 <u>盟の追究と言葉の力の獲得が重なる指導場面と伝統的な言語文化に触れる機会を設定をする。</u> 10月24日研究発表実施、2学期の継続実践と年度末検 証、	·全教員1日1回以上	複数児童の伸びが顕著である	·1日1回以上	項目2·3	項目 4
			授業始終の明確化、学習用具の用意、発言ルール・聴く 姿勢の徹底など学習規律を確立を図り、5分前終了を目途 として、集中した授業を行う。	·毎日確認	相互指名等児童が主体的に授業 をつ(る	・私語な〈、集中した学習の姿が概ね 見られる。		
	わかる・楽しい・動き のある授業を実現す る。		本校初の全校音楽会を実施する。音楽科を中心に総合 的な文化的学習成果の発表を行う。	・担任が中心となり、専 科の支えを得て、指導 を行う。	2学期以降の学習・小行事への児 童の意欲の高まりを感じる。	・児童自らの成長を確認できる。		
			創意を生かした読書活動や年間図書室活用計画を基に した図書室活用を推進する。			・読書促進の重点的取組を年間3回 程度		
			宿題及び自主学習、読書などの家庭学習習慣を各学年・専科等が具体的内容を明示して実施する。	·1学期確立 ·2学期定着	70%程度の児童が家庭学習習慣 の確立を図られている	・毎週継続的な家庭学習の実施		項目1:3
	はりあいとあこがれを もつ子どもを育てる。 j	あいさつの充実 道徳授業の改善 異年齢集団の活用 教育相談・特別支援教育の 推進	あいさつ(お・あ・し・す・さ)の励行により、気持ちの良い あいさつのあふれる地域・学校・学級づくりをする。(1)(2)	・毎朝教室、昇降口に て	複数児童の伸びが顕著である	・毎朝教室、昇降口にて	項目1	項目2
			年間指導計画に基づき、道徳の授業を展開し、学年等で交換授業を行うなど授業改善に努める。	·交換授業は年間2回 以上	内省を深めた児童の事例を3事例	·交換授業は年間2回以上		
			たてわり遊びやたてわり清掃・水曜集会を中心とした、 異年齢集団活動・交流の充実を図り、振り返りなどを通して、自覚を促す。	・第2の学級としての常 時活動	自己の言葉で語るなど主体的に下 級生をまとめ高学年児童の姿が見ら れる。	・リーダーとなる高学年児童への助 言を毎回行う。		
				・SC・心のふれあい相 談員・家庭と子どもの 支援員等との毎月の情 報交換	いじめの未然防止 問題行動や配慮を要する児童の 安定化 保護者の安心化・安定化	・いじめへの迅速対応と解決 ・毎月、児童への相談状況を自己点検 ・保護者の悩みや要望等の毎月の自己点検	項目4	

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策		高度に達成	概ね達成	保護者評価(4項目)	児童評価(4項目)
康	生涯にわたり、自己 に適した運動に親し む子どもを育てる。	日常的な運動の推進 教育環境の充実			複数児童の伸びが顕著であり、同 学年等に追試される。	・体力テストの実態を踏まえた授業を 週案に明示して実施	5. この他、全19項目について、記述形式で意見を受ける。	
			休み時間等、進んで子どもとともに遊び、体を動かすことが身近となる環境をつくる	·週3回以上	ほぼ週3回以上児童とともに遊ぶ	・概ね週3回程度児童とともに遊ぶ		
			安全・安心・パランスの取れた食の提供、安全・安心・整理された環境づくり、重点的・効果的な予算執行等を通して、児童の心身の育成や教育活動の向上を図る。	・四半期ごとに効果検証	前年比、顕著な効果事例が3事例	・四半期ごとに効果検証		
小中	9年間を見通した指	連携授業と課題改善カリキュ ラムの改善 <u>児童生徒による実践評価</u>	小中一貫5分科会及び教科分科会ごとに、年間1回以上新たな連携授業及び児童生徒交流を実施して、課題改善カリキュラムの改善を図る。	・協力指導(夏季中学 補習含む)1回以上、 交流1回以上	新たな実践	・分科会授業参画または支援		
中連携	導を常に行う。		_連携授業後の児童生徒の感想を蓄積して、適切に公開する。	·実践後、集約作成	児童生徒の感想分析と改善提言	<u>·集約公開</u>		
れ	顔見知りになるなど、 双方	ゲストティーチャー等の活用 双方向の情報発信·交流 地域行事参加	専門性を有するゲストティーチャーや保護者ボランティア を積極的に招聘し、感動のある授業の実現を通して、地域 ふるさと意識を高める。	·各学年専科学期1回 以上	学びの深まりを示す事例を3事例	·各学年学期1回以上		
			ホームページや学校・学年・学級・専科たよりなどによって、情報発信を行う。	・ホームページ週3回程度更新・学年・専科だよりの発行増	保護者評価で最上位評定が50% 以上	·ホームページ週3回程度更新 ·学年·専科だよりの発行増		
			地域行事に積極的に参加し、地域に根差す学校づくりに 資する。(5)	·適宜	地域行事等5回以上の参加もしく は児童引率参加	・適宜(できるところでの参画)		
教 師	使命感・情熱と実践 的指導力、社会性を もった教師として、研 鑽する。	週ごとの指導計画の活用に よる学年専科協働 思考を深める授業づくり	週の指導計画は、毎週提出。評価を必記載。学年専科会等での学年・専科間で共有。(4)(3)	·毎週提出	評価等の活用、共有	·毎週提出		
			「思考の深まり」「思考の喜び」に迫る授業の実現のため、授業観察を一教員年3回は実施する。また、授業観察 授業を全教員年3回以上参観し、助言票で改善を図る。 (7)	·年3回以上参観	思考の深まった児童の事例を3事 例	·年3回		